

日本小児感染症学会若手会員研修会第3回安曇野セミナー

緒言にかえて～5秒に1人の小児感染症死を防ぐために

森内浩幸*

世界中で5歳のお誕生日を迎えることなく命を失う子どもたちが、年間1,000万人もいます。そのうち700万人は感染症による死亡であり、計算すると5秒に1人、世界のどこかで感染症のために死んでいく子どもがいることになります。小児科医として感染症診療はとても大切な任務であり、子どもたちを救うために本学会が果たすべき役割はたくさんありますが、なかでも若い会員の皆さんの教育は最も重要な活動の一つではないかと思っております。

昨年の本セミナーは、台風12号が日本列島の中心部を襲った、その真ただ中での開催でした。交通が途絶え、どうしてもたどり着くことができなかつた参加予定者も数名出ましたし、到着時刻の遅れのために開催時刻も遅らせないといけなくなり、メインディッシュとも考えていたワークショップをとりやめメニューの再編成を行うなど、前日も当日も大わらわの状態での開催でした。それでも内容は充実し、参加者からも高い評価を受けることができました。

そして今年！ 週間天気予報を睨みつつ、台風忌避の願かけをしながら迎えた当日、信州安曇野は素晴らしい天候に恵まれました！ 戸外のバー

ベキューも、満天の星空を眺めながらのバンガローへの一歩きも、小鳥の鳴き声やせせらぎの音に癒されながらの早朝の散歩も快適で、安曇野の自然を満喫しました。

今回は予定通りワークショップも開催し、事前メール討議から当日のdiscussionとpresentation、そしてセミナー終了後のメール審議に至るまで、参加者は積極的にかかわって、その成果を論文の形にまとめてくれました。

そして例年通り、どのセッションもdiscussionは熱く、バーベキューの炎も熱く、温泉のお湯はほどほどに熱く、されどビールは気持ちよく冷たく、森島理事長から前期研修医に至るまで、年齢や経験の差を超えた和気あいあいの雰囲気なのか、自由活発に子どもの感染症についてともに考え、ともに働く仲間たちのidentityが確立されたのではないかと思います。

セミナーの成功は、参加した皆さん方やチューターの熱い思いに加え、事前準備と当日のお世話に大粒の汗をかいてくださった現地ボランティアの皆様のお蔭だと、心から感謝しております。この場をお借りしてお礼申しあげます。

では、来年度のセミナーにもご期待あれ！！

* * *

* 研究教育委員会委員長